



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター
Newsletter No.71 (2023.10.2)



短期語学留学、渡航再開はハワイ大学マノア校から

2020年、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、世界各国で渡航が制限されました。その後、徐々に制限が緩和され、ようやく昨年度(2022年度)4月、渡航待ちとなっていた留学生が来学しました。

語学センターで担当する5つの短期語学留学プログラムのうち、韓国の慶北国立大学のプログラムは2021年度からオンラインに切り替わって実施されましたが、現地に渡航してのプログラム参加は、今夏のハワイ大学マノア校がコロナ後初となりました。

8月27日～9月17日まで本学から10名の学生がプログラムに参加し、全員元気に帰国しました。現地での経験がとてもし有意義だったことが、写真の表情からも伺えます。

国際交流推進センターで実施された海外提携校受け入れ、交流プログラムを併せた、合計5つのプログラムの報告展示を廊下ギャラリーで実施していますので、ぜひ、ご覧ください。

目次:

2023年度前期海外短期語学留学の実施報告	
国際センター長・国際学部教授 李在鎬	1
広島県高等学校教育研究会	
理科部会総会・研究会を開催しました	
情報科学研究科教授 井上 智生	2
「"WELCOME"の意味」	
社会連携センター特任准教授 平尾 順平	2
Meet the Language Tutors!	3
国際学部3年 若井 綾見	
国際学部 博士前期課程 FADHLINA ADLIN	
マレーシア科学大学の学生が来学!	3
夏季休暇課外プログラムを実施しました	
JLPT オンラインハーフ模試、	
映画 DE 学ぼう!、視察報告	4

2023年度前期海外短期語学留学の実施報告

国際センター長・国際学部教授 李在鎬

皆さん、こんにちは。国際センター長の李在鎬です。残暑が続く毎日ですが、朝夕に秋の気配を感じるようになり、ちょうど2023年度前期の海外短期語学留学の実施状況を振り返る時期になりました。

本学の短期語学留学は、コロナ禍の長いトンネルを潜りぬけ、ようやく再開を果たしました。各国のコロナ水際対策の違いに加え、ロシアによるウクライナ侵攻のような地政学的要因、また円安や原油高などの経済的要因が重なり、中国の西南大学、ロシアのモスクワ国立大学、フランスのオルレアン大学への学生派遣を見送らざるを得ませんでした。一方、韓国の慶北国立大学向けプログラムは、コロナ禍でもオンラインで実施され、交流の空白を埋める役割を果たしましたが、今年度もオンライン実施のままだったため、やはり学生派遣には至りませんでした。

そのような厳しい状況の中で頼みの綱はアメリカのハワイ大学への派遣でした。ハワイ大学への短期語学留学においては、2019年度までは本学向けにカスタム化されたプログラム(2週間)が実施されましたが、

2023年度にはハワイ大学(Outreach College)が主管するNICE(New Intensive Course in English)プログラム(3週間)を採用しました。また、引率体制は従来のような全期間ではなく、3週間のうち初めの9日間と変更し、残りの期間は日本から現地の参加学生へ対応する形となりました。長いブランクの上、実施形態も一部自立型に変更になったため、指導及び支援体制も綿密な調整を重ねてまいりました。

引率者の井上先生、支援業務に携わった松本様ほか語学センタースタッフの皆様のご尽力により、さまざまな困難を乗り越え、10名の参加学生が8月27日～9月17日のプログラムを修了し、無事に帰国することができました。参加学生達は現地で大変積極的に語学学習や課外活動に参加したと伺っております。久しぶりにハワイ大学への短期語学留学を再開でき、関係者の皆様に改めて深くお礼を申し上げます。来年度には、参加学生の安全確保を最優先にしつつも、今回の経験を活かし、さらに短期語学留学先を増やしていきたい所存でございます。引き続きご協力の程、よろしくお願いいたします。



◆授業の様子



◆ハワイ大学マノア校のキャンパスで

広島県高等学校教育研究会理科部会総会・研修会を開催しました

情報科学研究科 教授
井上 智生

語学センター LL403B 教室をお借りして、2023 年 7 月 3 日に広島県高等学校教育研究会理科部会の総会・研修会を開催しました。高校では同じ教科を担当する先生が集まって教育に関する研究「部会」があり、今回の「理科部会」はその一つです。情報科学部で取り組む「広島県科学セミナー」などの高校の連携をきっかけとして、本学を会場として選んでいただきました。

広島県内の理科を担当される先生方約 50 名が参加され、総会・研修会が実施されました。今回は、「せっかく広島市立大学をお借りするのだから」ということで、1 時間ほどを本学の「大学紹介・施設見学」の時間として用意していただきました。うち 20 分ほどの時間で、会場となった語学センターのスタッフのお二人から、語学センターの設備だけでなく、本学の外国語教育プログラムや留学の支援の様子などをお話していただきました。そのお話を受けて、高校の先生方には本学独自の英語 e ラーニングを体験していただきました。高校の先生方からは、「立派な施設のおかげで有意義な議論ができた」「こんな素敵な環境で勉強できるなんて。(生徒に勧めたい!)」といった感想をいただきました。「語学センターのみなさんによろしく伝えて欲しい」というお言葉もいただきました。本学の魅力を十分伝えることができたのではないかと思います。

語学センターは、この LL403B に限らず、「勉強したくなる、やる気の出る」雰囲気の教室・設備ばかりです。今回のように、語学学習以外でも利用することができます。みなさんもぜひ、語学センターに来て、この魅力的な設備 & サービスを体感してみてください。



◆ 403B 教室での語学センター紹介の様子

ミニコラム 外国語に想う【54】

“WELCOME” の意味

社会連携センター 特任准教授
平尾 順平



◆パキスタンの列車内で現地のおじさんと

1997 年夏。国際学部の 3 年生だった私は、長期休みを利用して初めての中東を旅していた。イランやシリア、レバノンなどを移動する長距離バスの窓から見えるのは、砂漠、砂漠、砂漠、ちょっと岩場、そしてまた砂漠、砂漠、砂漠。時々現れるオアシスの緑に心から癒された。そんな中東旅のハイライトの一つは、ヨルダンとイスラエルの国境に位置する「死海」。死の海と言うだけあって、そこは生物が生きられないほど塩分濃度が高く、水に入ると蚊に刺された跡程度でも、めちやくちや滲みる。

そんな死海と言え、あのポーズ。そう、水面にあおむけに浮かんだまま、新聞を読むアレ。おー、ちゃんと浮かぶじゃーん！不安定ながらも、瀬戸内海では絶対にできないであろうミーハーな観光客ポーズを成し遂げた。

そこでさらなるミーハー心で思った「この姿を写真に収めておきたい！」少し浜に戻り「写ルンです」を片手に、誰かに頼もうと歩き出したところだった。

「WELCOME！」自分と同年ぐらいの地元民であろう兄ちゃんが、「俺が写真を撮ろうか？」というジェスチャーをしながらこちらにやってくる。おっ、これは渡りに船！「Thanks!」と伝え、彼に写ルンですを手渡す。彼はそれを珍しそうに手に取り、「ここを押すのか？」という顔で、シャッターボタンを指でさしながら「WELCOME？」と問ってくる？また WELCOME？と若干不思議に思ったが、「YES、YES！Please!」と返し、改めて水に戻り、ゆっくり寝ころびながら新聞を広げる。

すると彼は、少し離れた浜から、今度は「準備はいいか？」のニュアンスであろう「WELCO—ME？」と叫んでいるので、私は大声で「OK！」と返す。すると彼は、「ハイチーズ！」のリズムで「WE—L—COME！」と言いながら勢いよくシャッターを押してくれた。私「Thank you!」、兄ちゃん「WELCOME!」

後日現像したら、勢いよく押されたからか、かなりブレていたものの、新聞を開いて危なっかしく死海に浮かぶ日本人の姿はギリギリ認識できた。

ありがとう Mr. WELCOME。アラブ人の彼がおそらく唯一知っていたのであろう外国語の一単語「WELCOME」。その意味のバラエティに感動した二十歳の夏だった。言葉は大切。でもその向こうにある気持ちや想いはもっと大切だ。



◆死海で新聞

Meet the Language Tutors!

日本語

チューターとしての活動を通して学んだこと

国際学部 3年 若井 綾見



◆レッスン風景

私は1年生の時に、授業で日本語教育というのを知りました。母国語である日本語を外国語として捉えて教えるということに興味を持ち、チューターの活動に挑戦しました。

チューターとして、私は主に会話練習と教科書の予習と復習を行いましたが、日本語のネイティブスピーカーであっても日本語を教えていくのは決して容易なことではないと分かりました。助詞の使い分けや文末表現、動詞の活用だけでなく、細かな表現の違いが聞き手の受け取る印象に大きく影響するということを実感しました。留学生に、普段日本語を使う中で持った質問を投げかけられることが多くありましたが、外国語として日本語を捉えることのなかった私が考えたことのないようなことばかりで、私自身も疑問に思うようなこともありすぐに答えられるものばかりではありませんでした。母国語には、いつもルールを気にせず使っているのにも関わらず、適切でない違和感のある表現がいくつもあると気づきました。

また、ただ日本語を教えるだけでなく、文化についても紹介したり自分もその留学生の母国の文化を教えられる機会も多くあり、互いの文化を学ぶという経験をすることもできました。学校制度や公共交通機関、年中行事等、身近なことが文化によって大きく異なるということを学びました。

チューターがただ知識を教えるのではなく、交流を通して、互いに学ぶということは本当に楽しかったです。チューターとして活動できて良かったと思いました。そして、世界中の言語や文化への興味がさらに深まりました。これからも視野を広げ続けていきたいです。

英語

Living in Japan, and Tutoring are Fun Experiences!

国際学部 博士前期課程 FADHLINA ADLIN

My name is Fadhlina, and I come from Malaysia. I came to Hiroshima City University to study for my Master's. I started my journey here as a research student for one year.



◆チューターと

At Hiroshima City University, I already taught four students in total for one year. Three of them joined Malaysia for exchange; therefore, I introduced some basic conversation in Malay, and the rest were in English. I am happy to teach my tutees, and the tutoring experience is fun and exciting!

In Malaysia, our primary language is Malay Language, but English is widely used. Most Malaysians can speak English as English has been taught since kindergarten, and most subjects were in English. Therefore, I think it is an excellent opportunity to go on holiday/exchange in Malaysia because in terms of the language barrier, it will be less challenging for it.



◆夏祭りをエンジョイ!

My study abroad experience so far is full of excitement. This is my first time going abroad to study. Honestly, I don't regret having this choice because of some things I thought I would not be able to do, but I am capable. Somehow, I love to see how much I grow in this journey. I am grateful for the opportunities.

I also feel blessed to have chosen Japan as my first country abroad because the Japanese are so kind to help me when I need help. I will never forget how lovely were the people in Japan. I know that it is not easy to be abroad alone, but I believe that everything will be fine, and there must be some help on the way!

平和学習&交流イベント in 語学センター

マレーシア科学大学の学生が来学!

8月22日(火)2限目に、マレーシア科技大学から来学中の学生20名を対象とした授業"Global Hibakusha"(平和研究所 Robert A. Jacobs 教授)が語学センター408教室で行われました。

学生食堂でのランチ交流会の後、午後は再び語学センター408教室に戻ってマレーシア交流プログラムに参加予定の学生13人を中心とした本学学生と交流し、数グループに分かれてプレゼンテーションを行いました。本学学生はペナン島の歴史や文化等の説明を聞き、マレーシアのお菓子をいただいたりしました。

色とりどりの民族衣装を着たマレーシア科技大学学生のグループ別ダンスパフォーマンスでは、大歓声が沸き起こっていました。



◆授業ではたくさんの質問が飛び交いました。



◆多民族国家マレーシアでは、民族ごとに衣装が異なります。

夏季休暇課外プログラムを実施しました

夏休みの期間中、本学学生を対象とした2つのeラーニングプログラムを実施しました。



夏休み課外インテンシブ英語学習プログラム

「CALL 英語集中」「eラーニング英語」と同等内容の他に、リスニング、リーディング、文法に特化したプログラムがあり、それらを1ヶ月で受講するものです。今回初めてスピーキングプログラムが登場しました。

- 募集期間 : 7月28日(金)～8月9日(水)
 実施期間 : 9月1日(金)～9月30日(土)
 受講人数 : 一般プログラム 25名
 リスニング特化型 15名
 リーディング特化型 7名
 文法特化型 4名
 文法基礎 3名
 *スピーキングプログラムは
 全受講者が受講可



オンライン英会話 毎日レッスンチャレンジ!

1か月間、「レアジョブ英会話 日常英会話コース毎日25分」でマンツーマンのオンライン英会話レッスンを受講し、受講前後にスピーキングテストを受験するプログラムです。条件を満たした場合に受講料の半額助成金が支払われます。

- 募集期間 : 8月9日(水)～8月31日(木)
 実施期間 : 受講開始から1か月間
 *レッスン開始締切:9月15日(金)
 受講料 : 7,980円
 *「受講率70%」「スピーキングテスト2回受験」
 で、半額助成。
 受講人数 : 9名



2023年度 前期 JLPT N1-N5 オンラインハーフ模試を実施しました

昨年度に引き続き、全留学生を対象としたJLPT日本語能力試験対応のオンライン模擬テスト(eラーニング)を実施しました。受講期間はJLPT受験日直前の1か月間で、受講期間に2回分の模擬試験を受け、その後に復習しながら受験対策ができます。N1受講者のうち、1名が見事JLPT N1に合格しました。

- 学習内容 : JLPT日本語能力試験対応模擬テスト
 (N1～N5全レベル)
 受講期間 : 6月3日(土)～7月2日(日)
 受講者数 : 3名(内訳:N1 2名、N5 1名)



2023年度 前期 いちだい知のトライアスロン

映画 DE 学ぼう!



『外国語(英語・第二外国語)を映画から学ぼう』をコンセプトに、ランゲージラウンジで紹介上映を行いました。5月に広島で開催されたG7サミット特別バージョンとして、2月から引き続き5月まで、サミット参加国の作品を紹介しました。

上映映画をもっとじっくり視聴したい人は、自習室で視聴可能です。窓口でお問い合わせください。

- 期間 : 2023年4月10日(月)～2023年7月29日(金)
 場所 : ランゲージラウンジ
 作品 : 4月 「ピーターラビット2」(G7 イギリス)、「アダムスファミリー2」(G7 アメリカ)
 「ブレイク★ビーターズ」(G7 ドイツ)
 5月 「神無月のこども」(G7 日本)、「赤毛のアン」(G7 カナダ)
 6月 「シング ネクストステージ」(英語)
 7月 「メリーポピンズリターンズ」(英語)



視察報告

- 5月24日 University College Dublin 1名
 6月1日 進路指導教員対象大学説明会 10名
 7月11日 広島国際学院高校、武田高校 46名
 7月24日 広島中等教育学校 50名

語学センターの見学や英語eラーニング体験をしていただきました。



- 発行日 2023年10月2日
 発行 広島市立大学語学センター
 〒731-3194 広島市安佐南区大塚東 3-4-1
 編集 堀本真由美、沖野佳代
 Phone (082)830-1509 [内線: 6410]
 Fax (082)830-1794
 E-mail lang@m.hiroshima-cu.ac.jp
 ホームページ

<https://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html>

